

平成28年度学校評価まとめ

〈教員評価〉

1 教育活動

(1) 学習指導 (平均2.9)

昨年と比べて大きな変化はないが、H26より0.4ポイント減となっているベーシックの資格取得や授業規律や授業の在り方の改善、学力の低い生徒への対応も特別支援委員会なども交えて、対策が必要である。個々のレベルに応じた検定の選択や、授業、講習などの細かな指導が必要であると感じる。家庭学習においては、特に長期休業中の課題を出すことで家庭学習の習慣化や休み明けの課題テストに向けた取組も継続していく一方、平素における本来的な家庭学習の必要性も啓蒙していくことが肝要である。

(2) 生徒指導・健康安全 (平均3.1)

生徒の主体的な活動という意味では、まだまだ教員主導で生徒が動かされている場面も多い。生徒に自発的に行動させるためには行事を計画的に進める必要がある。

特にベーシックの授業における授業態度や規律を守る指導の徹底について今後の課題となる。各学年、教科での指導方法の改善やコース制や習熟度の見直しが必要である。

生徒指導事故の未然防止や事故の対応（特に初動）について連絡体制や協働体制がなされてきた。昨年度の反省でもあった情報共有や連絡、相談体制の脆弱さについては、分掌、学年会の定期的な開催と、相互の情報共有を確実にしていくことで改善された。

(3) 進路指導 (平均3.0)

ここ数年の進路決定率がほぼ100%であることは、学校の信頼や安心感にもつながると思われる。生徒募集の大きな要素の一つにもなっている。またセンター試験受験者が5名と、進学への意欲も向上してきている一方、さらに上を目指させる指導や早い段階での進路意識向上に向けた指導や進路指導部主体での計画的な面接指導、書類の書き方、企業・学校開拓などが必要である。特に公務員希望者が多く、外部講師を視野に入れながら講習など積極的な実施をしていきたい。

2 学校運営

(1) 信頼される学校づくり (平均3.3)

学校HPを活用し、保護者向け文書や行事の様子などを更新し、情報発信を心がけた。特に今年度は出願者数72名となり、学校説明会や、学校訪問、その他の取組により、本校の教育活動の在り方についての理解が深まったことの成果が現れていると考えられる。文武両道、学力向上に力を入れたことで、広く地域にも信頼を得たのではないかと感じられる。さらに本校の魅力を向上させるための進路実現のための教員個々の資質向上と、情報発信や学校運営協議会の活動を活発に行い、渡島西部の基幹校となり選ばれる高校を目指していきたい。

(2) 組織運営 (平均3.0)

分掌、学年の機能を充実させるために、部会や学年会の定期開催や、内容改善（各分掌担当、学年担当からの発信や、行事の計画の内容改善や把握など）を行い、情報の共有化を図ったが、さらに学年、分掌の枠を越えた連携を密にし、組織としての機能を充実させたい。

(3) 教職員の資質向上 (平均3.0)

校内研修コーディネーターによる、授業改善や校内研修の充実が図られた。また教員個々の専門性を高め、授業力を向上させるために、町立の強みである様々な校外研修参加で得た成果を各教科、分掌でフィードバックできる環境づくりをしていくことが重要である。

〈生徒評価〉

1 全体

過去4年間と比較すると、特に「学校の充実度」、「知内高校を選んでよかった」「ホームルーム満足度」などの学舎満足度の項目において、年々向上している。

昨年度の反省の中でもあった、現3学年については全ての項目において上昇していることから1年間で盛り返す。

学力向上の取組については上昇しており、将来を見据えて、校訓にもある「豊かな感性、高い知性」を目標に人間形成を目指す姿勢を崩すことなく指導していきたい。また、目標をもつての学校生活や悩みや困ったことについて相談にのってくれているかという項目は、全学年を通して「C」「D」も多く、SCを有効活用しながら気軽に相談できる体制作りを構築し、生徒にしっかり目標設定をさせる体制作りが必要である。

2 ポイント上昇項目

(1) HR への満足 (昨年から0.1↑)

(2) いじめのない学校 (0.1↑)

3 ポイント下降項目

(1) 学校や教員の生徒理解 (0.1↓)

気軽に悩みや困り感を相談できる体制作り、成績不振者や学校生活の指導などへの生徒への積極的な関わりが必要である。

〈保護者評価〉

・特に、学校行事や基本的な生活習慣に関する評価は高く、また年々向上している。子どもたち本来の質もあるが、先生方のきめ細かな指導の結果だと感じる。継続していきたい。

下降している項目に、生徒同様、「悩みや困ったことなどを学校に相談する」ことがあげられている。小規模の地域の学校として、強みであった気軽に相談できる体制や、生徒、保護者へ関係づくりが不足しているととらえ、今後は学校と生徒、保護者とのよい関係を築くことができるよう、情報の共有や発進をしながら、子どもたちが安心して将来の不安や人間関係などの相談ができ、3年間満足して通える学校の雰囲気づくりが必要である。また情報発信の面では、親元を離れている生徒も多いため、より情報が保護者に伝わるような工夫を心がけたい。

保護者からの意見を真摯に受け止め、教員の資質向上のための研修や職員同士の有益な関係づくりと全ての教員が子どもたちの小さな変化に気付き、個に応じた正しい対処ができる集団にしていくことが、信頼される学校づくりにつながっていく。

〈学校運営協議委員評価〉

・全体を通して3.0以上であり、特に学校の教育活動全体の評価は3.8と高い評価を得ている。学力向上を柱に学校の方向性を明示し、文武両道にぶれることなく努めた結果だと思われる。今年度は「進路意欲の向上」と「生徒募集」を柱に学校運営協議会員の皆さんにたくさんのご意見をいただきながら渡島西部の中学生が知内高校に魅力を感じ、高校進学を選択において本校を志望する生徒を増やしていく取り組みをしてきた。多くの教員による中学校訪問37校、学校説明会(知内、木古内、福島、松前)の実施、ポスターやPR動画の作成などによる魅力の発進をした。次年度はキャリア教育に重点を置き、社会人講話など開催をしたい。今後、将来を見据えて、この方向性を崩すことなくバランスのとれた人間教育をしていくことが、地域の期待に応えることにつながると考える。